

「上海・公園・閑暇」

上海・公園・余暇

初めての海外駐在で初めて訪れた中国。初めてではあるが、街には見慣れた東洋系の顔の人々と、看板には見慣れた漢字の文字。そのせいか？あまり感じられない違和感。さりとして、中国語は全く話せず聞き取れず、よくみれば看板にも見たことがない漢字も混じる。赴任直後のあわただしさが落ち着くと週末は手持ち無沙汰になるが、そうかと言ってコミュニケーションがままならないのに、さて何をしたのか？

駐在した街、上海には公園が多い。住まいの近くにも日比谷公園の1.2倍ほどの広さの公園があった。まずはこの公園を手始めに、週末は街を散策。そこで見た公園の賑わいはすごい。散歩やジョギングはもちろん、ダンス、凧揚げ、婚活、書道（写真参照）などなど…。所狭しと思いいに過ごす人々が、早朝から夕暮れ後まで途切れることがない。

ダンスは大音響で音楽をならしながら、集団で同じ動きをしたり社交ダンスであったり、中国全土で流行しているらしく「広場ダンス」と呼ばれる。中高年女性が多く、おそろいの派手な衣装を身にまとった集団もよく見かける。日頃油が多い中華料理を食べてるはずなのに、皆さんスリムなのは「広場ダンス」の効果かもしれない。

凧は照明をつけて夜でもあげている。公園のまわりは高層マンションが取り囲んでいるが、夜目でも

巧みに凧を操る。

婚活は適齢期を迎えた子を持つ親が主役。中国は一人っ子政策の影響で男女の人口比が偏り、男性が女性よりはるかに多く適齢期の男性が余る状況が社会問題にもなっている。おまけに不動産バブルで上海では億ションも珍しくないのに、お婿さんは家付きが条件。男親の心配は察するに余りある。

散策によって街の雰囲気にも馴染んできたところで、ジョギングで公園デビュー。しかし、ほどなく家の鍵を落とすアクシデント発生。走った時間より長い時間をかけてようやく見つけて事なきを得たが、一瞬野宿が脳裏をよぎった。トラブルがあったからという訳ではないが、その後公園に行く機会は減り、代わりにゴルフ場や体育館（バスケットボールコート）へと週末を過ごす場所が移る。同時に新たな発見は減るものの付き合いは広がる。そして、汗を流した後の一杯の機会も増える。

日本に戻ると、生活様式はいったんリセット。久しぶりの我が家は、庭木と雑草が伸び放題。

しばらくは庭の手入れが週末の過ごし方になりそうである。 (H.T)



傘にプロフィールと相手に求める条件を張り紙して婚活



墨は使わず水で書道